

労働党政権の可能性とドル、ポンド、金

OPECの顔とも言われたサウジアラビアのエネルギー相が解任され、オイル価格は上昇したが、米国の安全保障担当の大統領補佐官が解任され、オイル価格は下落した。前者はオイル価格の上昇を望むサウジの権力者の皇太子の意向にそぐわなかったためであり、後者は戦闘好きな補佐官が外れることで地政学的リスクが軽減するためと見られている。

地政学的リスクの軽減はリスクオフ取引の減少、リスクオン取引の増加に繋がる。型どおりなら、国債、金、円、スイスフラン、ドルが売られ、相対的に信用力の低い債券、新興市場国通貨などが買われる。

BREXITもリスクオフ取引を促した地政学的リスクの要因の一つであった。だがBREXITはそれにとどまらない。BREXITは資本主義、民主主義の先達の英国に対するイメージを一変した。ロシアのプーチン大統領は民主主義やそれをベースにした資本主義はもはや優れたシステムではなく、世界が目指すものでもない、と明言した。

確かにBREXITに取りつかれた英国は混乱の極みだ。全てがネガティブに映る。しかしこれも次に生まれるシステムのために辿る不可避の道であるとすればポジティブな事象に転換する。

例えばフランス革命では貴族による絶対王政打倒に始まり、市民、労働者による革命に転換していった。ロシア革命では2月革命は自由主義的なブルジョア革命であり、それが10月革命ではボルシェビキによる社会主義革命に転じた。

英国ではいずれ総選挙がある。現在は大混乱の保守党が政権を握っているが、不人気の労働党も政権を担う準備はしている。彼らの政策は現在のシステムを根本的に変えるものだ。再分配がキーワードだ。資本、経営、家主から労働者、借主への権力の移行だ。具体的には労働者が企業の株の10%を所有することなどだ。国有化も進める。

普通なら過激すぎて国民から受け入れられないが、BREXITでの混乱の後ならば別の混乱に過ぎないと受け入れられる可能性もある。党首もそうだが、ナンバー2の陰の財務大臣は筋金入りのマルクス主義者だ。最近企業幹部たちとの面談も増えているようで、保守党よりも安定をもたらすとアピールしている。

仮に労働党政権が誕生すると世界は変わる可能性がある。それがいいか悪いかは人の立場による。ただ現行の資本主義体制が生み出した最大の矛盾の一つの格差の是正には有効だ。地球温暖化への対策にも迅速に対応できる。

こうした大変革の時代に向かっているとしたら、ドルやポンドは売られ、金やデジタル通貨が買われるのだろう。それに人民元や安全通貨の円やスイスフランもとりあえずは買いたいな、と思う。